



竹駒神社

計量みやぎ

2011.1.1
編集発行
仙台市太白区長町7-22-23
宮城県計量検定所内
(社)宮城県計量協会
TEL 246-2466・FAX 247-1490
www.keiryu.net/

「富県」の芽を大きく育て

豊かな実りにつなげる年に



宮城県知事 村井 嘉浩

明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えることとお喜び申し上げます。

昨年は、栗駒山で二年ぶりに山開きが行われたほか、国道398号も全線通行可能になるなど、岩手・宮城内陸地震からの復興が着実に進んだ一年でした。一方、二月に発生したチリ沿岸地震による津波では、養殖施設などに大きな被害が発生しました。被災者の皆様にはあらためてお見舞い申し上げます。

私は知事就任以来、「富県宮城の実現」を目指してトップセールスによる企業誘致に取り組む、あわせて、県内の道路や港湾など産業を支える基盤整備を進めました。その結果、多くの製造業及び関連企業の立地が決定し、この一月にはセントラル自動車株式会社の新工場が操業を開始するなど、成果が着実に目に見える形になってきました。誘致企業や関連企業の創業開始に伴って、雇用確保の面でも県全体で大きな効果が期待できます。県内の雇用経済情勢は依然として厳しい状況が続いていますが、今後も、県民の皆様が安定して働ける場の確保を最優先に取り組んでいきます。また、子育て支援や介護基盤の整備を始め、医療・福祉や教育の充実など、県民の皆様が安心を実感できるような施策にも積極的に取り組んでまいります。

にぎわいを呼び込む観光産業は地域の経済活性化の効果が大きく、地域に潜在する資源の見直しにもつながります。今年には「夏の

宮城」の魅力の皆様を知っていただくため、七月から九月に「仙台・宮城「伊達な旅」キャンペーン」を開催し、広域観光や外国人観光客の誘客にも力を入れてまいります。

また、農林漁業者と加工、流通・販売の関係者が連携して新しい商品やサービスを生み出す「農商工連携」やブランド化の推進など、本県の農林水産業を元気にする取り組みに力を入れてまいります。

宮城の豊かな自然環境を守り、また、地球環境問題にしっかりと対応していくことは、宮城で暮らしている私たちすべての県民の責務です。昨年の県議会二月定例会でお認めいただいた「みやぎ環境税」を財源に、今年四月からクリーンエネルギー利用の普及促進などの二酸化炭素排出削減対策や、二酸化炭素吸収源確保のための森林機能強化をはじめとする環境施策に、一層手厚く取り組んでまいります。

県財政を取り巻く環境は引き続き大変厳しくなっておりますが、県民の皆様は「生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかった」と実感していただける宮城県を構築していくため、「富県」の芽を大きく育て、豊かな実りにつなげられるよう努力を続けてまいりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。あいさついたします。

年頭のご挨拶



会長

鍋島 孝敏

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご家族お揃いで新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年の十月には東北・北海道計量大会が当宮城県の設定で約二〇〇名の参加を得て開催されました。実行委員を努めて頂いた理事の皆様を始め、会員各位には本当にご苦勞様でした。おかげ様で宮城県の心意気を各県の役員さんにも示す事が出来て、会長としても感謝に堪えません。この大会は東北・北海道各県の持ち回り制のため今年度は秋田にて開催されます。次回、宮城県に回って来る七年後のためにも、今年も多くの県内会員の皆様の参加をお願いしております。

さて、今年度は我が計量協会としては、懸案の「新公益法人制度」に対して一般社団法人への移行申請を行わなければなりません。本来であれば、計量協会のような法人こそが、「公益社団法人」にふさわしい団体であると自負していますが、会計処理の煩雑さや利益金処分の制度など予想外にハードルが高く、やむなく今回は一般社団

法人の申請を致します。

が、昨年行われた計量大会でも議題として取り上げられました。が、検定業務すら民間に委託させるを得ない行政組織の弱体化の中では、我々のような協会組織こそがその受け皿として「公益事業」を担って行かなければならない時代が来ている、と強く感じています。

本年も、会員の皆様の益々の発展と協会活動へのより一層のご尽力をお願いして年頭のご挨拶とさせていただきます。

仙台市経済局

産業政策部経済企画課

課長 佐野直樹

皆様には健やかな新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

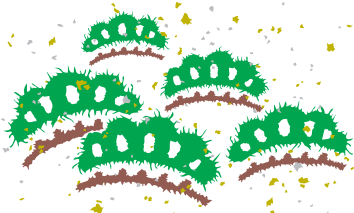
日頃より仙台市の計量行政につきまして、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

地域経済を取り巻く環境は、一部で持ち直しの動きが見られるものの、雇用情勢をはじめ依然として厳しい状況が続いております。その一方で、仙台都市圏への様々

な産業の進出や東北新幹線の青森延伸など、仙台市そして東北全体にとつて圏域の個性を輝かせる機会として、将来に向けた躍動が期待されております。

本市におきましても、平成二十七年の地下鉄東西線の開業を目指して、総合的な交通体系の構築を進め、機能集約型の都市構造への転換に取り組んでいるところであります。また、産業の振興や交流人口の拡大など、様々な地域経済の活性化に向けた施策を引き続き推進しながら、東北地域全体の飛躍に繋がるような積極的な役割を果たして参りたいと考えております。

本市では、貴協会を指定定期検査機関として定期検査業務を実施しておりますが、本業務が計画通りに実施できますのは皆様方のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。引き続き、計量行政の適正な執行に努めて参りたいと存じますので、貴協会の皆様のなお一層のご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



あけましておめでとうございます

会長 鍋島 孝敏 (日 東 イ シ ヲ)

副会長 千葉 信弘 (北 日 本 環 境 整 備 株 崎)

同 伊達 啓公 (株 藤)

専務理事 武田 巖 (社 宮 城 県 計 量 協 会)

常務理事 吉田 俊文 (社 宮 城 県 計 量 協 会)

常任理事 菅原 功 (計 量 協 会)

同 加藤 啓二 (仙 台 環 境 科 学 株)

同 和田 岑生 (株 旭 商 会 仙 台 店)

同 斎藤 孝司 (日 本 エ ン ジ ニ ヤ ー サ ー ビ ス 株 東 北 支 店)

同 加藤 清隆 (仙 台 ヤ マ ト ハ カ リ 株)

同 笠原 秀 (計 量 協 会)

同 三浦 誠 (ト キ コ テ ク ノ 株 東 北 支 店)

同 松本 康成 (株 金 門 製 作 所 東 北 支 店)

同 河野 敏彦 (み や ぎ 生 活 協 同 組 合)

同 佐藤 武志 (株 寺 岡 シ ス テ ム)

同 水越 隆夫 (テ ッ ク エ ン ジ ニ ア リ ン グ 株 東 北 支 店)

同 高橋 栄一 (株 仙 台 測 器 社)

同 嶺岸 優 (東 北 公 害 保 安 株)

同 松尾 靖 (東 北 緑 化 環 境 保 全 株)

同 橋本 裕之 (愛 知 時 計 電 機 株 仙 台 工 場)

同 熱海 周一 (財 宮 城 県 公 衆 衛 生 協 会)

同 南部 満 (エ ヌ エ ス 環 境 株 東 北 支 社)

同 安齋 敏行 (大 阪 シ ー リ ン グ 印 刷 株)

同 甲斐 健一 (財 食 品 環 境 検 査 協 会)

同 森 英泰 (株 タ ッ ノ ・ メ カ ト ロ ニ ク ス 東 北 支 店)

同 大湯 澄 (大 湯 商 店)

同 鈴木 昇二郎 (東 陽 エ ン ジ ニ ア 株)

同 二階堂 亮一郎 (計 量 協 会)

(敬称略)

平成二十二年 度 東北・北海道計量大会 第五十九次 東北六県北海道計量協会連合会総会

平成二十二年 度 東北・北海道計量大会及び第五十九次東北六県北海道計量協会連合会総会が、十月七日(木)に仙台市秋保温泉「ホテル佐勘」を会場に開催された。計量行政機関、計量団体、会員二百名程の参加者の中、開会が宣言され、主催県である東北六県北海道計量協会連合会鍋島会長より歓迎の挨拶があり、続いて計量思想の普及啓発に尽力された方々に敬意を表し、各県から推薦され



会長挨拶



大湯 澄氏表彰

た計量功労者七名と感謝状受賞者三名に表彰状と記念品を贈呈した。宮城県からは計量功労者として協会監事である大湯澄氏、前計量検定所技術次長古川隆氏、感謝状を受彰された。また、受賞者を代表して、秋田県塚田晃氏が謝辞を述べられた。
次に大会記念事業として、「宮城県拓桃医療療育センター」及び仙台市社会福祉協議会を通じ、「社会福祉法人ありのまま舎」に対して、「車椅子体重計」及び「デジタル体重計」を健康管理の一助としてそれぞれ寄贈した。その後、橋本理事より大会宣言が読み上げられ、「くらしを守る確かな基準：計量・計測」「地球環境・温暖化への新たな挑戦」と二つのスローガ

ンを掲げ採択された。続いて来賓の方々から祝辞を頂き大会は無事終了した。

計量行政室室長
古川 雅之 様

(独)産業技術総合研究所
計量標準管理センター長
三戸 章裕 様

宮城県知事(代理)
経済商工観光部次長
平泉 博 様

仙台市市長(代理)
経済局経済企画課長
佐野 直樹 様

(社)日本計量振興協会
専務理事
河住 春樹 様



行政室長挨拶

大会に引き続き、午後二時二十分より「第五十九次東北六県北海道計量協会連合会総会」が開催された。会則に従い、議長には鍋島連合会会長が就き、前年度の開催県である山形県より昨年の御礼と報告を受け議事に入った。
二十二年 度の各県の提出議題は次の通りである。

議題一 計量思想の普及・啓発の取組について 秋田県

議題二 計量協会の進むべき動向について 福島県

議題三 計量思想の普及活動強化について 山形県

議題四 計量思想普及・啓発等について 宮城県

議題五 連合会次期開催地について 宮城県

以上の議題について、それぞれ活発な協議がなされ最後に議題五については、次期開催地を秋田県にするということでした。承され、鍋島会長から秋田県森会長に大会旗が引き継がれた。なお、秋田県森会長から二十三年十月六日(木)秋田市で開催予定という報告を受け、計量大会・連合会総会は予定通り終了した。

続いて、記念講演として、仙台大学副学長・教授であり、また東北楽天ゴールデンイーグルスシニアアドバイザーもされているマーティン・キーナート氏に「チーム



講演風景

ワークの真の意味」という演題で講演を依頼した。滞日四十年という流暢な日本語でプロ野球のおもしろさや、チームワークの内情等、興味のある話題などたっぷりとユーモアを交え、会場の中は爆笑で包まれるという大変有意義な講演内容であった。

また、十八時三十分からの参加者一同に会した交流会では、宮城県・仙台市を盛んにアピールしている、おもてなし集団「伊達武将隊」の面々をお呼びし、会場を大いに盛り上げるのに一役買って貰い、各テーブルと交流を深められ盛会であった。

翌日の視察研修は、白石市の材木岩・伝承の館「碧水園」・白石城など貸し切りバスで視察し、昼食は白石名物うーめんを賞味して頂き、その後仙台駅で解散となった。

二日間天候に恵まれ、無事当番県の役目を終えたことに安堵しており、ご協力頂いた関係者に御礼を申し上げます。

10 ひろば

イベント特集

平成22年10月30日(土)

10:00~14:00



重さ当てコーナー

カゴ詰めされた野菜の重さ(ダイコン、白菜、キャベツ、人参、ナス、カボチャ等)はいくらかな?と発表まで待ちきれない様子でした。



111グラムを 当てよう

11月1日にちなんで、111グラム計量に挑戦してもらいました。



20

計量の

日は計量記念日



11月1日は計量記念日



平成22年度 計量記念日応募作品 図画 ポスターの部 入選
仙台市立南材木町小学校 6年 小島 千奈



社団法人 宮城県計量協会



今年の「計量のひろば」は、ララガーデン長町1階南エントランスにおいて、宮城県・仙台市共催のもと盛大に行われました。当日はあいにくの曇り空となりましたが、10時に鍋島会長の挨拶で開会し、引き続き宮城県計量検定所長からの挨拶、来賓として出席された県議会議員石川光次郎先生・元市議会議員渡辺博氏からお祝いの言葉を頂いた後、「計量記念日ポスター」、「なんでもはかってみようコンテスト」募集で入選された小学生の表彰式を行いました。その後、各コーナーのイベントへと移り、今回は小さいお子様への風船を用意し、また重さ当てコーナーでは「野菜」ということもあり、会場は子供さんから主婦の方々まで終始賑わいを見せておりました。



計量クイズコーナー

クイズに挑戦して貰った方には、りんごを参加賞として贈呈した。



健康測定コーナー

体脂肪はいくらかな？

平成二十二年 度 計 量 記 念 日 全 国 大 会 開 催

経済産業省・計量記念日組織委員会が主催する「平成二十二年 度 計量記念日全国大会」が十一月一日、東京浜松町ホテルインコンチネンタル東京ベイで開催された。

第一部の計量記念式典では、経済産業大臣表彰計量関係功労者(十二名)・産業技術環境局長表彰(四名)の方々が表彰を受けられた。計量関係功労者として、当協会常任理事加藤啓二氏が受賞された。第二部記念行事では、小学生の計量に関する理解の向上、理科教育の推進をはかることを目的に「なんでもはかってみようコンテスト」の募集を行ったところ全国より五十三点の応募があり、最優秀作品一点、優秀作品二点が表彰された。

最優秀作品は茨城県小学校五年生「新聞紙一枚をはかる」

普段読んでいる新聞はいろいろなことに使われる、まどふき、生ごみを包んですてたり、野菜をくんで保存したり等々新聞に興味を持ち、新聞一枚をはかることを思



加藤 啓二 氏

いつき実行したとのことで、観測内容等記載した半紙を会場に展示されていた。

優秀作品二点「おばあちゃんちまでなんぼでいけるかな」「おいしい水探しくおいしい水発見!」それぞれ克明に記載した半紙に絵入り、写真入りで展示されていた。また、計量啓発標語も全国から九五一点の応募があり最優秀作品一点、優秀作品二点、佳作十点到に表彰された。

特別講演では、早稲田大学・教授林泰弘氏が講師となり、「スマートグリッドが切り開く未来」と題して講演が行われた。

(講演要旨)

低炭素社会の実現を目指し、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー・電源の大量導入、ヒートポンプ給湯器などの熱エネルギー利用の電化、電気自動車の普及による移動手段の電化などを通して、CO2排出量が少なく環境に優しい電化社会の構築が始まっている。このような低炭素社会を支えるインフラとして、スマートグリッド(次世代送配電網)への関心が、国内外で高まって。一般的に、スマートグリッドとは「電源(集中型/分散型)・電力流通設備・電力需要設備に、ICT(通信技術、制御技術、計測技術)などの先端技術を活用して、より環境性・品質性・効率性を高める電力供給システム」を指すと言われている。しかし、世界各国でグリッドの電源構成、設備形

成、管理・制御、社会が満足する電力品質レベル、電力需要の伸びなど、現在に至るまでの背景や歴史が異なることから、それぞれの国が目指すスマートグリッドが必要となつた背景、概念及び機能等を紹介するとともに、スマートグリッドが切り開く今後の経済、社会の展望について等々の講演要旨であった。

優良事業所視察・研修会 in 福島県

古河電池株式会社 いわき事業所

11月12日 金曜日

「古河電池様視察で学んだ事」

この度、工場見学会に参加をさせて頂くのは初めてでした。緊張と期待のなか、待ち合わせ場所へと向かいました。

この時期、楽しみのひとつが紅葉です。東北自動車道の車窓から眺める景色は葉の色づきも見事で、安達太良連峰の山々を見れば雪化粧と：自然の素晴らしさを感じながら、福島県いわき市へと向かいました。仙台を八時に出発し視察場所へ辿り着く前に、いわき市内が三六〇度見渡せる「いわきマリインタワー」に登りました。予報では曇りでしたが、見渡す限り青空でまさに小春日和の晴れやかな景色を望む事が出来ました。美空ひばりの代表曲として有名な「みだれ髪」の歌詞にも登場する塩屋岬も見ることが出来ました。

今年視察訪問した会社は、新しいエネルギーの開発に力を注いでらして、宇宙より今年六月に帰還した「はやぶさ」のLiイオン電池を搭載した事でも知られる古河電池(株)いわき事業所です。まず始めに耳にしたのが「ご安全に!」という聞き

慣れない挨拶言葉でした。毎日あたりまえの様に工場で交わされる挨拶言葉こそが、日々の安全につながる事を実感しました。防災事故の事例も拝見し、一歩間違えれば大惨事につながり、取り返しのつかないケガにもなりえる事を目にして改めて安全活動の大切さを考えさせられました。品質の方針も素晴らしく、「期待される技術」、「信頼の品質」、「満足されるサービス」を日々提供する事はもとより、「我が社は、限らない挑戦を続けたい」という言葉をお聞きし、見習わなければならぬと切に思いました。日頃の挨拶言葉「ご安全に!」と声をそろえる理由は、「今日一日が安全な作業になります様に」と願いを持って、言葉にはしないまでも「お互い安全で!」そして「大切な家族も安全であります様に」という社員全員が持つ心遣いが安全を継続し、お客満足度につながっている事に深く感銘をうけました。

短い時間では有りましたが、貴重な経験をさせていただいた事をありがたく思いました。

日本エンチニヤ!

サービス(株)

遠藤 早苗



平成二十二年度 第三十二回東北六県計量士会

(計量協会計量支部会)東北地区協議会

平成二十二年度計量士会東北地区協議会は十二月十五日、福島市「ホテル辰巳屋」において、東北地区の計量士並びに関係者三十二名が参加して開催された。

来賓として福島県計量検定所 西方所長(社)日本計量振興協会 村松常務理事が出席された。

最初に西方所長、村松常務理事の挨拶の後、福島県計量士会 加藤会長が議長になり議事に入った。



された。

議題一については、検定等業務委託、検定業務の是非及び計量士の検査権限について討議され、指定検定機関の認定権限を国(大臣)から(県知事)に引き下げや、「指定検定機関として満たさなければならぬ条件等、組織としてそのものを整理する必要がある」等の意見が上ったが、結論はまとまらず、今後の推移を見守ることとなった。

議題三・議題四の郵政関係の議題については、松村常務理事から、今後の取り扱い等についての回答が示された。

議題六では次期三十三回開催地の提案があり、次期開催地を山形県とする事で承認された。

それに関連して、議題二で岩手県から提出された「今後の研修内容については時間の制約もあり、意見がまとまらなかったが、山形県計量士部 門脇会長から「今後、次々回当番県の宮城県と協議しながら進めていきたい」との話があり、議事を終了した。

その後、初めての試みとして当

協会の佐藤業務総括課長(社)岩手県計量計測技術センターの池田常務理事が講師となり、「ISO10012計測マネジメントシステムの概要」と計量トレーサビリティと簡単な不確かさ」について講習会を行い、計量士としての資質の向上を図った。

最後に村松常務理事から「最近の郵政管理事業について」ということで、全般的な郵政管理事業の状況や、委託業務執行における課題、平成二十三年度に向けての報告を受け、協議会を終了した。

会社紹介

OSP 大阪シーリング印刷株式会社

仙台市宮城野区榴岡3-7-35 損保ジャパンビル10階 TEL 022-293-7131



那須工場

「シール・ラベルは商品の広告塔。」

あらゆる業種業態におけるパッケージをサポートし、新しい価値を商品に与えて頂くことが我々の使命と考えています。

OSPグループは1927年に創業して以来、リーディングカンパニーとして、シール・ラベルの価値を追求し発展してまいりました。1993年には「フィルム製品事業」に着手し、そして現在では「紙器事業」も展開しており、パッケージにおけるワンストップサービスを展開しております。

多様化する顧客ニーズに応えるため、私たちは生産プロセスをシステム化することで、お客様に満足して頂ける短納期・コストダウン・高品質を実現しております。さらに近年ではトヨタ方式を工場内に導入することで、これまで培った技術・経験を進化させ、着実に成長し続けております。

OSPは、創業以来、変わることない顧客第一義の基本理念の上に立ち、これからも顧客満足のいく商品・サービスのご提供を行ってまいります。

会社概要

商号	大阪シーリング印刷株式会社
代表者	松口 正(代表取締役社長)
本社住所	大阪府大阪市天王寺区小橋町1-8
創業	1927年(昭和2年)
設立	1954年(昭和29年)
資本金	3億2,443万9,200円
売上高	720億1,600万円(平成22年1月)
従業員数	2,844名(平成22年1月)



宮城県計量検定所からの

お知らせ

今年度中元期(七月十四日～八月五日)の商品量目立入検査の結果は、検査個数四四二個(四十四戸)。うち量目不足二十七個で不適正率は六・一%でした。量目不足の主な原因は、計量時における風袋引きの軽視等の人為的なもので、正しく設定すれば量目不足の大部分を防げるものでした。なお、前年同期と比較すれば、不適正率は半減していますが、全国平均二・八%に比べれば、今後も適正計量の努力を行わなければならないと思います。

また、同時に行いました「はかり」の使用状態の検査では、定期検査未受検や水平状態の不適合ものが多々見受けられました。

特定計量器の立入検査は、一般家庭で使用する石油ガスメーターはじめ灯油販売用車載燃料油メーター等の立ち入り検査を実施しましたが、適正な使用が確保されていません。

今後は、計量器製造・修理事業者や計量証明事業者等の立入検査を実施し、計量の出前講座などを通じましてさらなる計量思想の普及啓発に努めることとします。



平成二十三年度

定期検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十条(指定定期検査機関)に基づく、仙台市の定期検査は、次のとおりです。

- 青葉区、太白区

平成二十三年度

特定計量器代検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五条(定期検査に代わる計量士による検査)による検査区域は次のとおりです。

- 石巻市(大型はかりについては旧石巻市のみ)
- 栗原市
- 塩釜市
- 多賀城市
- 登米市
- 刈田郡(蔵王町、七ヶ宿町)
- 黒川郡(宮合町、大和町、大郷町)
- 柴田郡(柴田町、大河原町、村田町、川崎町)
- 宮城県(利府町、松島町、七ヶ浜町)

*検査対象の事業所に対しては、具体的な日程等について当協会よりご通知差し上げます。また、検査を受けていない事業所で、取引証明に使用されている計量器をお持ちの場合は、定期検査を受検されますよう宜しくお願い致します。

食で元気&キレイ

医・食・同・源

色や形が悪い、割れやすいなど爪のトラブルを予防改善



健康な爪に欠かせないアミノ酸

爪はケラチンという数種類のアミノ酸が結合したタンパク質でできており、その主要成分はシスチン(イオウを含む合流アミノ酸の一種)です。また、シスチンを体内で生成する働きがあるのがメチオニン(必須アミノ酸・合流アミノ酸の一種)です。爪の健康を守る栄養分を効果的に摂取するには、これら合流アミノ酸を豊富に含む食品を摂るのがよさそう。いずれもマグロ、カツオなどのほか、旬のイカナゴ、アユ、メバル、トビウオ、シラス干しなどに豊富に含まれております。

色や艶、形を守るミネラル

爪のトラブル予防にはミネラルも重要です。亜鉛が不足すると爪に艶がなくなったり、表面に白い斑点などが出るそう。亜鉛は旬のイタダコやソラマメ、ウナギ、ホタテガイなどにたっぷり。爪が変形するのは鉄不足かも。鉄はアサリ(水煮・佃煮)や干しヒジキ、コマツナ、インゲンマメなどに豊富に含まれております。爪が割れたり折れたりするのを予防し、丈夫にしてくれるのがカルシウム。干しエビ、ワカサギ、切干しダイコン、乳製品などを積極的に食べるとよさそうです。

爪をサポートする栄養素

水溶性ビタミンのピオチン(ビタミンB群の一種)は、爪の根本に吸収され、弱った爪を改善する働きがありそう。レバー類やイワシ、落花生、クルミなどに含まれています。ちなみにピオチンは白髪や薄毛、肌荒れを予防することでも知られた栄養素です。また、コラーゲン(タンパク質)も爪に欠かせない栄養素といわれています。カルシウムの吸収を助ける働きもあります。鶏の手羽肉、鶏ガラスープ、砂肝、スペアリブなどに含まれております。

編集後記

昨年の世相を一字で表す漢字が「曇」であったように、今までにない猛暑を経験しました。

気象学的にいろんな原因が考えられるようですが、COP16をあざ笑うかのように地球温暖化が進んでいるようです。

平成二十二年度、第五十九次東北・北海道計量大会では、関係者各位の方々には大変御苦勞様でした。ゲゲゲの女房のことは借りれば「だんだん」です。

大会記念講演での東北楽天「ドルデンイーグルス、シニア・アドバイザー、マーティ・キーナート氏とのフリートークでは、来期の新監督が誰なのかで盛り上がりました。結局、星野仙一監督に決まり、さらに期待のメジャーコンピ、松井稼頭央内野手・岩村明憲内野手が入団し、周辺では優勝宣言が飛び出すほどの「曇」になっています。

サッカーでは、ベガルタ仙台がJ1残留となり、今年の活躍が期待できます。

今年も当協会も一般社団法人としての出発の年でありますのでご協力を会員の方々にお願致します。

(編集委員長 加藤)